

平成20年度
函館・大沼・噴火湾ルート活動報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題
5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

1. ルート運営活動計画の進捗状況

ルート名称： 函館・大沼・噴火湾ルート		報告者：会長 金道 太郎						報告年月：2009/3/4	
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	No	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
景観づくり	美しい景観とは何かについて考える	景観診断の参加	★1	国道278号の景観向上に向けた調査検討	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成20年9月～平成21年3月	約10名	HA - 1	国道278号における看板調査を実施した。調査した看板の中から、老朽性や連続性等の観点から撤去及び集約などを行う看板の抽出を行い、次年度シーニックの日などで看板の撤去等を実施する。
		テーマごとのエリアの紹介		-					
	ビューポイントを発掘する	シーニックフォトクラブの設立		-					事業分科会ごとにテーマに沿ったプロジェクトチームを立ち上げ、各種検討を行うことができた。汐首岬灯台については、海上保安庁との協議を進めながら、次年度シーニックデッキ設置に向けたモニター調査及びアンケート調査を実施する。ルートマップは地域住民がおすすめる資源を抽出し作成したルートマップをルートHPなどでPRを行い、次年度はそのルートマップを活かした新たな活動(シーニックカフェなど)に向けた検討・実施を行う。
		シーニックバスツアーの開催	★2	汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会	平成20年7月～平成21年3月	約10名	HA - 2	
		シーニックルートマップの作成	3	ルートマップの作成	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会	平成20年4月～平成21年3月	約20名	HA - 3	
		フォトコンテストの開催		-					
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	清掃活動の実施	★4	シーニック清掃活動	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成20年4月29日(祝) 8:00～12:00	約100名	HA - 4	シーニック清掃活動は今年度実施した活動であるが、今後は上記の看板撤去・集約とからめた活動について検討を行う。函館新道における植栽活動は、参加団体数及び延長距離も年々拡大しており、また、環境に配慮した循環型活動にも今年度初めて着手し、今後の活動に大いに期待できる。
		植栽活動の実施	5	函館新道における植栽活動	函館花いっぱい道づくりの会	平成20年6月～平成20年12月	750名(植栽活動時)	HA - 5	
		景観阻害の改善		-					
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	バル街V協賛イベント「街なか探訪・学び」ツアー (H19：シーニックバスツアー)	6	シーニックバスツアーの開催	シーニックdeナイト2009実行委員会	平成21年2月7日(土) 15:30～20:50	35名	HA - 6	シーニックバイウェイルート記念事業として始めたシーニックdeナイトの実施場所を周回するシーニックバスツアーを実施した。今後は、シーニック関係者だけでなく、旅行会社とのタイアップ等で一般市民も多く参加できるシステムについて検討を行う。
		「旧恵山町のブナ林と春の野の花の観察と生きた火山恵山とその周辺の歴史を学ぶ」ツアー (H19：シーニックdeナイト2008)		-					
		「鹿部町間欠泉とホタテの耳吊り体験」ツアー (H19：夏休み体験講座、恵山観察会)		-					
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	縄文文化を再現し体験する歴史探訪ツアー	7	シーニックdeナイト	シーニックdeナイト2009実行委員会	平成21年2月7日(土)～平成21年2月15日(日)	約300名	HA - 7	シーニックdeナイトは、実施団体及び実施地域が拡大し、少しずつではあるが輪が広がってきている。しかし、定期収入がないため、運営費獲得に向けた方策が必要である。洞爺湖サミット記念の森は、シーニックの森づくり第1弾として実施した取り組みであるが、今後団体客などの受け入れ体制や森づくり場所などの検討が必要である。地域資源の収集ワークショップは、ルートマップ作成のために実施した取り組みであるが、これまで関係の薄かった地域を中心に実施した。全体としては、活動団体の連携強化を図ることができた。
		西部地区の歴史的街並み探索ツアー	★8	洞爺湖サミット記念の森事業	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議	平成20年6月1日(日) 9:30～12:00	約150名	HA - 8	
		温泉宿泊施設を拠点に各種体験を交えた「癒し」のツアー	★9	地域資源の収集に向けたワークショップ	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会	平成21年1月19日(月)～平成21年1月21日(水)	約25名	HA - 9	
		ルート全体で取り組むスマイルキャンペーン (H19：バリアフリーボランティア事業)		-					
		場所を変えた観光分科会の開催 (H19：縄文の道フォーラム)		-					

	歴史を学び活かす	「函館の歴史を学ぶ」講座	10	縄文の道フォーラム	NPO法人函館市埋蔵文化財事業団	平成20年9月13日(土) 14:00～17:00	約150名	HA - 10	縄文の道フォーラムは、縄文時代の文化遺産と自然環境に恵まれた函館の魅力を高めるために実施した。今後は縄文と観光等を絡めた地域の活性化に向けた検討が必要である。
		「函館の港を船上から学ぶ」講座 (H19: アンギン編み&勾玉作り)		-					
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく	キャンプ&ラリーの開催 (H19: 赤松観察会)							秋の大沼の自然散策を実施した。ガイドとしてのプログラムは多く持っている団体であることから、シーニックの活動と絡め集客力を高める取り組みを検討することが課題である。
		横津岳ガイドツアーの開催 (H19: 恵山観察会)	11	大沼公園湖畔と島巡り	NGO函館自然観察会	平成20年10月26日(日) 9:00～14:00	6名	HA - 11	
		自然環境教育プログラムの提供		-					
	ガイドの発掘・育成	大沼公園ボランティアガイド研修会	★12	バリアフリーボランティア事業	北海道運輸局	平成20年10月4日(土)～平成20年10月24日(金) 10:00～16:00 平成21年1月10日(土)～平成21年1月25日(日) 11:00～17:00	約100名	HA - 12	JR函館駅及び函館空港にて、バリアフリーボランティア事業を実施した。身体障害者や高齢者に対する介助ボランティアだけでなく、行き先案内などの観光ボランティアの要素も含んでいる事業となっている。今年度実施した運営体制を継続・拡大していくことで、函館ルートのおもてなしの醸成や観光客増加の要因となることから、今後の活動に大いに期待できる。
		ガイド発掘・育成のための連携づくり							
	地域と来訪者の心をつなぐ	人とひととのふれあい方について勉強する	★13	外国人へのおもてなしプレ調査①	シーニックバイウェイ支援センター	平成20年10月21日(火)9:00～10:00 16:30～19:30	約40名	HA - 13	シンガポール人に対する日本の文化などに関する体験メニューの提供を行った。この取り組みを通じ、外国人に対する接し方を学んだり、体験メニューのニーズ把握などを行った。今後は、コミュニティビジネスに向けた検討や実施地域の拡大についての検討を行うことが必要である。
			★14	外国人へのおもてなしプレ調査②	シーニックバイウェイ支援センター	平成20年12月15日(月) 15:00～20:30	約140名	HA - 14	
	内部的な関心の共有、意識醸成	函館・大沼・噴火湾ルート活動団体一覧作成 (H19: 代表者会議の運営体制の変更など)	15	ルートHPの更新	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会	平成20年7月～平成21年2月	約10名	HA - 15	30件程度の情報についての更新を行ったが、今後の実施体制及び維持費についての検討が必要である。
	地域メディアとのタイアップ	FMいるかの情報誌「いるか通信」に特集記事掲載		-					地域メディアとタイアップした活動は取り組むことができなかったが、新聞やテレビなどでシーニック活動をPRすることができた。
		FMいるかの特別番組による情報発信		-					
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックかるたの作成 (H19: はこまち通信作成によるPRなど)	★16	シーニックかるたの作成	森町観光ボランティアガイドの会	平成20年11月～平成21年2月	約100名	HA - 16	小中学生を対象とし、地域資源を後生に守り伝えていくためにルート内の地域資源をテーマとしたシーニックかるたを作成した。また、作成したシーニックかるたを用いたかるた大会を行うことで今後の課題が明確になった。はこまち通信は、シーニック情報拠点である函館市地域交流まちづくりセンターで4回発行しているフリーペーパー内でシーニック情報をPRすることができた。
		地域資源を説明するカードの作成	17	はこまち通信作成	函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会	通年	約5名	HA - 17	

※表中“★”はH20新規活動

国道278号の景観向上に向けた調査検討

【内 容】景観向上に向けた取り組みである違法看板の撤去や集約化に向けた検討を行うにあたり、国道278号における看板の基礎調査を行った。また、収集したデータに基づき、今後の撤去・集約の手法やプライオリティについての検討も行った。

【日 時】平成20年9月～平成21年3月

【場 所】函館市・鹿部町・森町

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【協 力】函館開発建設部

【参加人数】約10名



管理番号 1

国道 278 号における道路附属施設(看板)チェック箇所調査

函館 開発建設部

路線名 一般国道 278 号 KP = 0 ~ 1

L・C・R L

平成 20 年 9 月 11 日

改善後の写真

汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討

【内 容】 ルート内のビューポイントである汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討を行った。まず灯台の付近の事前調査を行い、灯台の管理者である函館海上保安部にシーニックバイウェイ北海道やシーニックデッキ設置に向けたルート運営代表者会議の意向を伝えるなどして、灯台開放に向けた協議を重ねてきた。まだ灯台開放の了承は得られていないが、今後モニター調査やアンケート調査を実施し、ビューポイントとしてのニーズ把握やPRを行う（平成21年4月予定）ことにより、シーニックデッキの実現に向けた取り組みを継続していく。

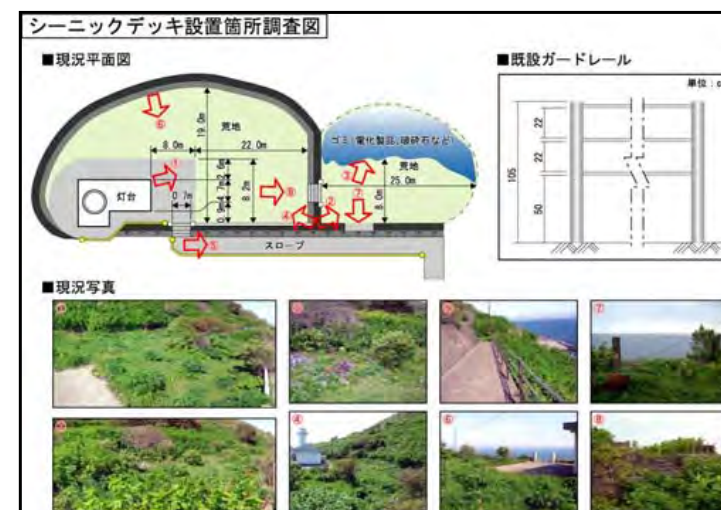
【日 時】 平成20年7月～平成21年3月

【場 所】 函館市

【主 催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会

【協 力】 函館開発建設部、函館海上保安庁

【参加人数】 約10名



HA-3

ルートマップの作成

【参加人数】 約20名



- 【内 容】4月29日を“シーニックの日”に制定し、ルート内の各地域で一斉に清掃活動を行う取り組みとして、今年度から始まった。今年度は、函館市では五稜郭タワー周辺及び函館市地域交流まちづくりセンター周辺、七飯町では田園通り及び大沼周遊道路で実施した。
- 【日 時】平成20年4月29日（祝） 8:00～12:00
- 【場 所】函館市・七飯町
- 【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議
- 【協 力】（株）五稜郭タワー、自然公園財団大沼支部、山川草木を育てる会大沼本部、函館開発建設部、七飯町
- 【参加人数】約100名



函館新道における花の活動

【内 容】今年で5年目を迎えた函館新道における植栽活動である“はこだて花かいどう”。年々規模を拡大しており、片側600mの区間に花苗約10,000株、参加人数750人で6月に植栽活動を実施した。水やりや雑草取りなどの維持活動を経て、11月に撤去活動を行った。また、撤去した活動は次年度の肥料に再利用する堆肥づくりなど活動の幅も広がってきている。

【日 時】平成20年6月～平成20年12月

【場 所】函館新道

【主 催】函館花いっぱい道づくりの会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館道路事務所、函館土木現業所、函館市、函館市水道局、（財）函館市住宅都市施設公社、（株）函館空港ビルディング、函館新道沿線企業

【参加人数】750名（植栽活動時）



シーニックバスツアーの開催

【内 容】シーニックdeナイト2009に合わせ、シーニック関係者を中心としたシーニックバスツアーを開催した。平成21年2月7日（土）に同日開催した大沼と南茅部を回り、シーニックdeナイト2009の地域への波及及び地域住民への浸透についてのアンケート調査も行った。

【日 時】平成21年2月7日（土） 15:30～20:50

【場 所】函館市、七飯町

【主 催】シーニックdeナイト2009実行委員会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議 函館大谷短期大学、FOLLOW ME JAPAN 函館開発建設部、函館運輸支局、函館市

【参加人数】35名



シーニックdeナイト

【内 容】今年で3年目を迎えるシーニックdeナイト2009。キャンドルづくりから、冬の夜空の下道路沿いにキャンドルを設置・点灯する地域住民参加型のイベントである。年々、実施地域・参加団体が拡大し、地域の輪が広がってきている。

【日 時】平成21年2月7日（土）～平成21年2月15日（日）

【場 所】函館市・七飯町・八雲町

【主 催】シーニックdeナイト2009実行委員会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館市、七飯町、八雲町

【参加人数】約300名



洞爺湖サミット記念の森事業

- 【内 容】この活動は、現在シーニックバイウェイ北海道で展開されている「シーニックの森づくり」に関連する事業であり、また、本年7月に洞爺湖にて開催されるサミットの記念事業として実施した。当日は約150名が参加し、ミズナラ1,400本の植樹を行った。
- 【日 時】平成20年6月1日（日） 9:30～12:00
- 【場 所】西大沼国有林
- 【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議
- 【協 力】函館青年会議所、函館開発建設部、函館運輸支局、渡島森林管理署、渡島支庁、函館土木現業所、函館市、七飯町
- 【参加人数】約150名



地域資源の収集に向けたワークショップ

【内 容】シーニック参加団体の人的交流の促進及び地域資源の把握を目的にワークショップを開催した。ワークショップは北斗市・鹿部町・森町・八雲町に直接出向き、運営代表者会議メンバー及び行政連絡会議メンバーによる観光施設・体験メニュー・食・景観等についての情報共有を行った。

【日 時】平成21年1月19日（月）～平成21年1月21日（水）

【場 所】北斗市・鹿部町・森町・八雲町

【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議事業分科会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、七飯町

【参加人数】約25名



【内 容】日本の縄文文化は、自然との調和を保ちながら1万年以上も継続した世界に類のない文化であり、函館市の南茅部地域には史跡大船遺跡をはじめ、北海道初の国宝に指定された「中空土偶」など、多くの縄文時代の文化遺産が存在している。また、現代社会の課題となっている「継続可能な社会」のあり方について考えるとき、G8北海道洞爺湖サミットにおいて地球温暖化など環境問題がテーマとなったように、人と自然との関わり方が重要な課題となっている。本フォーラムは、地球環境と人類の歴史をとおして、未来の社会のあり方を考えることによって、縄文文化の大切さを世界に発信し、もって縄文時代の文化遺産と自然環境に恵まれた函館の魅力を高め、あらたなまちづくりの礎とすることを目的とするものである。

【日 時】平成20年9月13日（土） 14:00～17:00

【場 所】函館市中央図書館

【主 催】NPO法人函館市埋蔵文化財事業団

【共 催】函館市教育委員会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、渡島支庁、函館市ほか

【参加人数】約150名



大沼公園湖畔と島巡り

【内 容】紅葉のきれいな秋の大沼公園の湖畔をNGO函館自然観察会のガイドとともに散策した。
今年の紅葉は例年に比べ色づき始めるのが遅く、まだ緑色した木々が生い茂ってはい
たが、自然の厳しさなどをガイドから教わった。

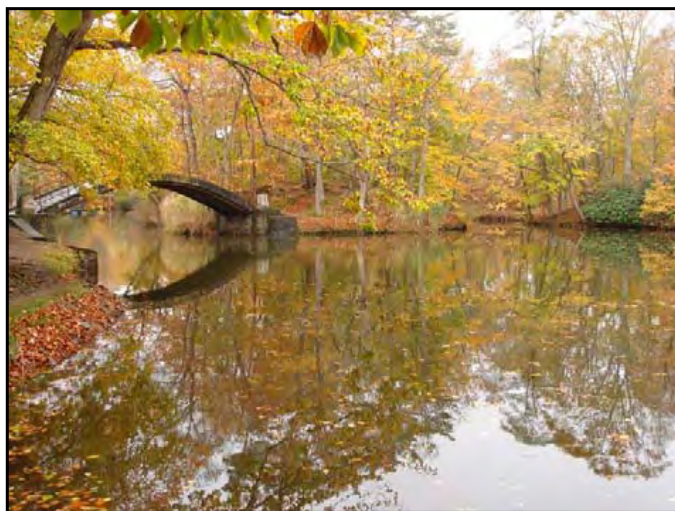
【日 時】平成20年10月26日（日） 9:00～14:00

【場 所】七飯町大沼

【主 催】NGO函館自然観察会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議

【参加人数】6名



バリアフリーボランティア事業

【内 容】観光来訪者が多い函館市において、北海道のモデル的な取り組みとして、ボランティアによる介助等が実際にどのような効果をもたらし、どのように評価され、どのような課題があるかを検証し、持続的なバリアフリーボランティアの推進体制構築を目指し「バリアフリーボランティア事業」を実施した。

【日 時】平成20年10月4日（土）～平成20年10月24日（金） 10:00～16:00
平成21年1月10日（土）～平成21年1月25日（日） 11:00～17:00

※平成21年は金・土・日・祝日のみ

【場 所】JR函館駅、函館空港

【主 催】北海道運輸局

【協 力】函館バリアフリーボランティアプロジェクト検討委員会（NPO法人スプリングボード
ユニティ21、函館すぷれっとなど）、函館開発建設部、函館市

【参加人数】約100名



外国人へのおもてなしプレ調査①

【内 容】 “Fly & Drive Hokkaido Autumn Romance” ツアー（10/18～10/25）において、シンガポールから計42名（添乗員3名含む）のドライブ観光客が北海道を訪れ、10/20,21は函館市の湯元啄木亭別亭飛天に宿泊た。飛天宿泊の2日目（10/21）に飛天のお部屋をお借りして、着物の着付け体験などの日本の文化・暮らしに関する交流体験を提供した。

【日 時】 平成20年10月21日（火） 9:00～10:00 16:30～19:30

【場 所】 香雪園 湯元啄木亭別亭飛天

【主 催】 シーニックバイウェイ支援センター

【協 力】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館善意通訳会、

【参加人数】 約40名



外国人へのおもてなしプレ調査②

- 【内 容】 “Winter Story Rusutsu” ツアー（12/14～12/23）において、シンガポール観光客141名とスタッフ16名の計157名が北海道を訪れ、12/15,16は函館市の湯元啄木亭別亭飛天に宿泊した。15日（月）には、地元のNPO団体などの協力を得ながら、餅つきやアイスクリーム作り、アイスキャンドルなどを体験した。
- 【日 時】 平成20年12月15日（月） 15:00～20:30
- 【場 所】 BAYはこだてイベントホール&イベント芝広場、金森ホールなど
- 【主 催】 シーニックバイウェイ支援センター
- 【協 力】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部、函館市
- 【参加人数】 約140名



- 【内 容】平成20年3月に完成した函館・大沼・噴火湾ルートHPにおける、23件の地域活動団体の活動PRと4件の活動報告を行った。
- 【日 時】平成20年7月～平成21年2月
- 【場 所】函館市・七飯町
- 【主 催】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会
- 【協 力】函館商工会議所青年部、（社）函館国際観光コンベンション協会、NPO法人スプリングボードユニティ21、活力ユニット
- 【参加人数】約10名



【内 容】ルート内の地域資源（観光地や歴史など）を用いた読み札をワークショップにて検討し、その読み札に沿った取り札を作成するために、ルート内の小中学校に募集をかけた。また、製作し終わったシーニックかるたを用い、小学校でかるた大会を行うことで、次世代への地域資源の継承を行った。

【日 時】平成20年11月～平成21年2月

【場 所】函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町

【主 催】森町観光ボランティアガイドの会

【協 力】函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議、函館開発建設部

【参加人数】約100名



【内 容】はこまち通信は、年4回発行しているフリーペーパーで、函館市の情報が詰まった情報誌となっている。この中で、シーニックバイウェイ北海道「函館・大沼・噴火湾ルート」ページを設け、旬の情報の発信を行った。

【日 時】 通年

【場 所】 函館市・北斗市・七飯町・鹿部町・森町・八雲町

【主 催】 函館・大沼・噴火湾ルート運営代表者会議情報分科会

【協 力】 -

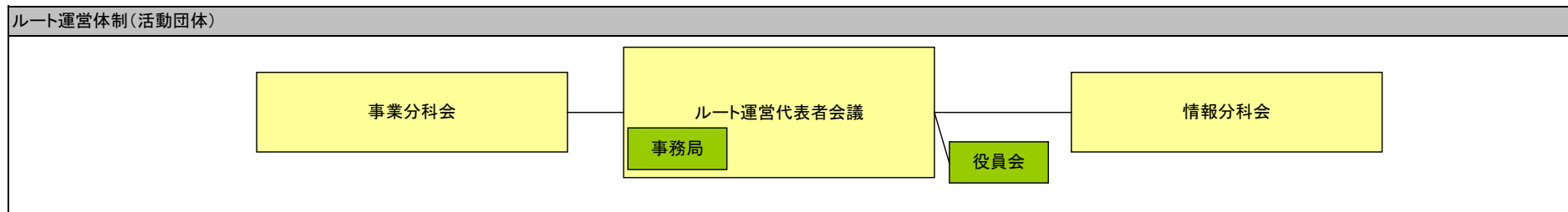
【参加人数】 約5名



3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 会長 金道 太郎	報告年月: 2009/3/4
---------------------	---------------	----------------

活動団体
函館商工会議所、(社)函館国際観光コンベンション協会、函館湯の川温泉旅館協同組合、函館商工会議所青年部、函館21の会、南北海道オートリゾートネットワーク研究会、函館湯の川温泉旅館協同組合 青年部、NGO函館自然観察会、NPO法人スプリングボードユニティ21、北の縄文CLUB、NPO法人函館市埋蔵文化財事業団、NPO法人どうなん「学び」サポートセンター、NPO法人函館エコロジークラブ、活力ユニット、函館すぷれっと、はこだて菜の花プロジェクト、ふしぎな花俱樂部 はまなす会、南北海道産業クラスター研究会、恵山地区女性団体連絡協議会、函館花いっぱい道づくりの会、函館手工芸の会、(財)北海道国際交流センター、NPO法人南北海道エネルギープロジェクト、NPO法人NPOサポートはこだて、戸井コミュニティビジネス研究会、北斗市観光協会、エコホスピタリティーはこだて、kazeru & kazeru、大沼観光協会、七飯町商工会、鹿部温泉観光協会、森町花いっぱい運動推進協議会、森町観光ボランティアガイドの会、八雲観光協会



	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	ルート運営代表者会議						3日							昨年度意志決定機関を役員会に移し、役員会を中心とした具体的な活動の検討・実施を行うことができた。次年度に向けた課題としては、34団体の更なる連携に向けた地道な活動(団体ごとに個別訪問しシーニックで実施したい活動の聞き取りなど)が必要である。
	役員会	3日		24日						22日				
	事業分科会		15日 シーニックの森づくり検討会		3日 シーニックデッキ検討会			9日 シーニックデッキ検討会						
		22日 ルートマップ検討会	20日 ルートマップ検討会								10日 ルートマップ検討会			

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2009/3/4
---------------------	--------------	----------------

	基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
	行政連絡会議の実施		28日											行政連絡会議への活動団体のバックアップ体制(人的支援)に関する情報発信を十分に行うことができた

4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート		報告者: 函館開発建設部		報告年月: 2008/3/4			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成20年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観づくり	美しい景観とは何かについて考える	国道278号の景観向上に向けた調査検討	平成20年9月～平成21年3月	函館開発建設部	国道278号の看板の撤去・集約に向けた看板基礎データ収集調査終了後、次年度以降の看板撤去手法等の検討を行った。	ルート運営行政連絡会議への連絡を行っているが、関係する参加団体がいない行政の参加はほとんど見られない。次年度以降は、参加団体の更なる連携強化により、地域活動を充実させるとともに、行政の参加しやすい形について検討する必要がある。	★1
	ビューポイントを発掘する	・汐首岬灯台におけるシーニックデッキ設置に向けた検討 ・ルートマップの作成	・平成20年7月～平成21年3月 ・平成20年4月～平成21年3月	函館開発建設部、函館運輸支局、(社)日本自動車連盟、北斗市、七飯町、八雲町	汐首岬灯台でのシーニックデッキ設置に向けた海上保安庁との協議に参加し、汐首岬灯台の現状確認・開放に向けた条件等について検討を行った。また、汐首岬灯台周辺の駐車場整備に向けた課題把握も行った。ルートマップ作成にあたっては、ルート運営行政連絡会議へ会議案内を行うことで、地域とともに良いルートマップ作成に向けた検討を行った。		★2 3
	ビューポイント周辺の景観向上に取り組む	・シーニック清掃活動 ・函館新道における植栽活動	・平成20年4月29日 ・平成20年6月～平成20年12月	函館開発建設部、函館道路事務所、函館土木現業所、函館市、七飯町	シーニック清掃活動では、ルート運営行政連絡会議への参加連絡を行い、函館市・七飯町での清掃活動に参加した。函館新道における植栽活動においても同様である。		★4 5
地域づくり	自然を守りながらうまく活用していく						
	ガイドの発掘・育成	バリアフリーボランティア事業	平成20年10月4日～平成20年10月24日 平成21年1月10日～平成21年1月25日	函館開発建設部、函館運輸支局、函館市	北海道運輸局が主催のイベントをルート運営行政連絡会議にて情報発信を行い、バリアフリーボランティアとして、函館駅及び函館空港にてボランティアを行った。		★12
	地域と来訪者の心をつなぐ	外国人へのおもてなしプレ調査②	平成20年12月15日	函館開発建設部、函館市	シーニックバイウェイ支援センターが主催で実施した元気再生事業「外国人のドライブ観光総合支援プロジェクト」のプレ調査において、事前準備や打合せ、体験メニューの提供などでの協力を行った。	ルート運営行政連絡会議への連絡を行っているが、参加する行政機関はほとんど決まっているのが現状である。	★14
	内部的な関心の共有、意識醸成					函館市以外の地域における地域連携活動の充実が必要であると考えられる。	
	地域メディアとのタイアップ						
	多彩な世代に訴えかける情報ツールの開発	シーニックかるたの作成	平成20年11月～平成21年2月	函館開発建設部	ルート内の地域資源を活かした読み札を作成するためのワークショップを情報分科会とともに行った。		★16
観光振興	地域固有の資源を活かした観光メニューの創出	シーニックバスツアーの開催	平成21年2月7日	函館開発建設部、函館運輸支局、函館市	シーニックバスツアーの参加呼びかけをルート運営行政連絡会議に行った。また参加した行政関係者は大沼でのキャンドル設置を地域と一緒に行った。	活動団体の連携強化のための活動では、ルート運営行政連絡会議の連携もかなり見られることが分かる。従って、活動団体同士の連携活動にいかに行政が関わっているかについての方策が今後必要である。	6
	活動団体の連携強化と観光の質の向上	・シーニックdeナイト ・洞爺湖サミット記念の森事業 ・地域資源の収集に向けたワークショップ	・平成21年2月7日～平成21年2月15日 ・平成20年6月1日 ・平成21年1月19日～平成21年1月21日	函館開発建設部、函館運輸支局、渡島森林管理署、渡島支庁、函館土木現業所、函館市、七飯町、八雲町	シーニックdeナイトでは、キャンドルづくりのために必要な牛乳パックの収集の連絡に始まり、キャンドルづくり、キャンドル設置に関わる連絡をルート運営行政連絡会議に行い、参加協力も行った。洞爺湖サミット記念事業においても、情報連絡と参加協力を行った。地域資源の収集に向けたワークショップでは、各地域のルート運営代表者会議とルート運営行政連絡会議が一緒になって地域資源の情報共有を行った。		7 ★8 ★9
	歴史を学び活かす	縄文の道フォーラム	平成20年9月13日	函館開発建設部、渡島支庁、函館市	縄文の道フォーラムでは、チラシの後援名義の認可とフォーラムへの参加も行った。		10

※表中“★”はH20新規活動

5. 平成19年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 会長 金道 太朗	報告年月: 2009/3/4
---------------------	---------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、改善の仕組みの強化、人材育成の取組の充実を期待する。	ルート連携活動の地域への波及及び地域住民への浸透を目的に、汐首岬灯台でのシーニックデッキ設置に向けた検討やシーニックかるたの作成など新たな活動が展開された。また、継続活動としても、シーニックdeナイトや植栽活動などがあり、確実に地域への輪が広がっている。人材育成の取組みにおいても、バリアフリーボランティア事業や外国人へのおもてなし事業などがあり、観光振興・地域活性化などに向けた取組みとしても期待できる。しかし、ルート連携活動全体を振り返ってみると、まだまだルート運営代表者会議の中でキーマンになるような新たな人材発掘・育成ができていない。従って、次年度は34団体で組織される参加団体のヒアリングを通じて、各参加団体が行っている活動の現状把握と課題の抽出、今後シーニックで実施したい・できる活動などを一覧表にしたものを作成し、全参加団体の情報共有資料として配布及びルートHPでアップすることが考えられる。これらの活動を通じ、更なる地域への活動の浸透及び人材育成の充実を図りたい。	

ルート名称: 函館・大沼・噴火湾ルート	報告者: 函館開発建設部	報告年月: 2009/3/4
---------------------	--------------	----------------

平成19年度活動報告への助言	平成20年度 状況報告	備考
・地域へのルート活動の更なる浸透や、改善の仕組みの強化、人材育成の取組の充実を期待する。	地域連携活動が実施されている地域が函館市や七飯町といった地域にまだまだ限定されているため、行政連絡会議のバックアップ体制(人的支援)を行う関係機関も限定されている。従って、メール等による月1回の定期的な活動の情報発信を行い、活動の情報共有や意見収集などの場を設ける必要があると考えられる(ルート運営行政連絡会議は常時開催できないため)。	